

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦について

文 部 科 学 大 臣 殿

令和 6年10月 1日

下記の専修学校の専門課程を職業実践専門課程として認定する課程として推薦します。

記

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
岡山科学技術専門学校	昭和62年10月19日	大月秀之	〒700-0032 (住所) 岡山県岡山市北区8-10 (電話) 086-255-7171				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人岡山科学技術学園	昭和62年10月19日	瀬戸川正彦	〒700-0032 (住所) 岡山県岡山市北区8-10 (電話) 086-255-7171				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	国際自動車工学科	平成29(2017)年度		令和 5(2023)年度		
学科の目的	国土交通省の一種養成施設として、自動車整備に関する専門知識や技術・技能について座学および実習を通して体験的に学習する。さらに、実践力の向上と仕事に対する厳しさを学び、関連した資格取得を目指す。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格は、二級自動車整備士(ガソリン、ジーゼル)、電気自動車の整備の業務等に係る特別教育である。令和5年度の中退率は3%。理由は、在留カード更新不許可など。						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,400 単位時間	960 単位時間	0 単位時間	1,440 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
225人	129人	129人	100%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		63人				
	■就職希望者数(D)		62人				
	■就職者数(E)		62人				
	■地元就職者数(F)		15人				
	■就職率(E/D)		100%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		24%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		98%				
	■進学者数		0人				
	■その他						
	(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無				
	※有る場合、例えば以下について任意記載						
当該学科のホームページURL	https://www.oist.ac.jp/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数	2,400 単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	1,308 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間					
	うち必修授業時数	2,400 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	1,308 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間					
	(B: 単位数による算定)						
	総授業時数	単位					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位					
	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位					
	うち必修授業時数	単位					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3人		
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人		
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人		
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人		
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1人		
	計				5人		
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				0人			

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

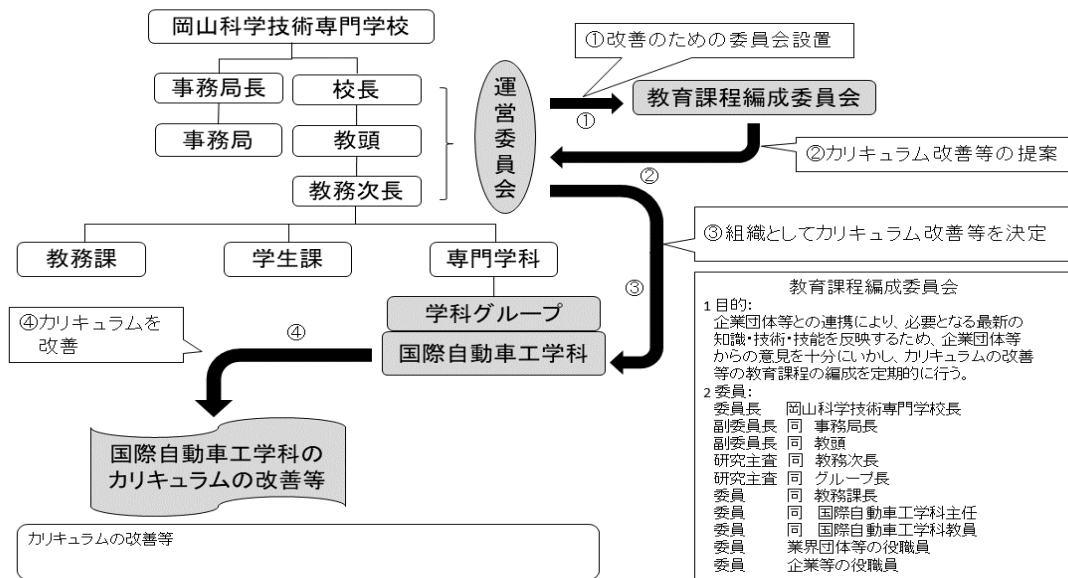
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 本学科は、自動車整備の関連業界で活躍できる人材を育成するために、関連企業と連携のもと、下記①～⑥の視点に基づき、業界の技術的動向や人材の育成にかかる情報等の収集や分析に努めるとともに、これらを踏まえた学科教育方針(教育課程や学習内容および育成する学生像等)を策定し、社会に貢献できる実践的技術者の育成を目標に専門教育を推進する。
 また、教育活動の推進にあたっては、学生による授業評価や管理職による公開授業評価等に加え、関連企業等との協議(教育課程編成委員会等)を通して助言や提言をいただきながら、教育課程に関わる指導内容や指導方法について検証(PDCAサイクル)するとともに、検証結果に基づいて次年度の学科教育方針を策定する。
 以上が、教育課程の編成に係わる企業等との連携の基本方針である。

- ① 地域における自動車整備の関連業界の動向について
- ② 自動車整備の関連業界において人材に求められる専門性の動向について
- ③ 求められる実務に関する知識・技術・技能・資格等について
- ④ 自動車整備の関連業界が求める人物像について
- ⑤ 自動車整備の関連業界における人材育成について
- ⑥ 整備実習に関わる指導プログラムについて

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、学園組織図の「職業実践専門課程推進委員会」の下部組織として位置づけ、下図に示すように①運営委員会の指示のもと、教育課程編成委員会において企業関係者等から意見を聴取するとともに、現行教育課程の検証を行い、必要に応じて②運営委員会に教育課程の改善等を提案する。③運営委員会において提案が妥当であると決定した後は、④国際自動車工学科の学科教育方針の見直しを行い、座学および実習の指導内容等の改善を図る。なお、年度末の教育課程編成委員会においては改善後の評価等を実施するとともに、翌年度の教育課程の編成にいかす。

教育課程編成委員会の位置付け



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
大月 秀之	岡山科学技術専門学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	
小野 裕明	岡山科学技術専門学校 事務局長	〃	
平野 裕久	岡山科学技術専門学校 教頭	〃	
津田 恵美	岡山科学技術専門学校 教務次長	〃	
永岡 淳	岡山科学技術専門学校 教務課長	〃	
伊丹 直毅	岡山科学技術専門学校 国際自動車工学科 第3グループ長	〃	
山本 裕二郎	岡山科学技術専門学校 国際自動車工学科 教員	〃	
武田 保晴	岡山科学技術専門学校 国際自動車工学科 教員	〃	
橋口 昌文	岡山科学技術専門学校 国際自動車工学科 教員	〃	
川上 学	岡山科学技術専門学校 国際自動車工学科 教員	〃	
赤木 晴彦	一般社団法人岡山県自動車整備振興会 事業部 係長	〃	①
松下 洋	スズキ岡山販売株式会社 サービス部 執行役員 部長	〃	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回(5月～7月、2月～3月)

(開催日時)
第1回 令和5年7月20日(木) 13:30～15:30
第2回 令和6年3月4日(火) 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記

【提言】

① 企業にとっても整備士が不足している状況が続いている上に定着率が下がっている一つの原因として人間関係の問題がある。特に日本語力の低い留学生はコミュニケーションがうまく取れず孤立しがちである。企業としても可能な限り拠点に留学生を複数配属する様に努力はしているが限界がある。学校としても日本語力強化(特にコミュニケーション能力)をお願いしたい。

② 多くの先進技術が出てきており、学生の興味の維持の為に企業と連携した授業を継続して行ってほしい。企業側としても協力したいので相談してほしい。

【活用・改善】

① 学校としても同様に感じている。読み書きは出来るが聞く話すの能力が低い学生も見られる。通常の自動車の授業に加えて日本語の授業も盛り込む様にする。

② 多くの企業から協力を頂いているが、定例になっても何例かある。今後は協力頂ける企業を増やせる様に努力する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
本校では、学科教育は学科教育方針に基づき目指す学生像を到達目標におき教育活動を推進している。中でも実習指導は実学主義の観点から、高度な技術・技能について指導する必要があり、企業との連携は不可欠である。そこで、企業との連携にあたっては、自動車整備関連の業界において高い技術力を有するとともに、知識・技術・技能について指導力があり、技術者としての態度やマナー等の指導にも十分な理解と協力が得られること等を重視し決定する。
企業等との連携に基づく実習は、科目「エンジン(点検・分解・組立・調整・検査)故障原因探求」とし、諸条件を満足する企業を選定するとともに、協定書等を締結しこれに則り実施する。以上が企業等との連携の基本方針である。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

○企業の選定と協定: 連携の基本方針の条件を満たす企業として、学科で計画している実習内容に理解をいただき、かつ実習指導が可能な企業をお願いした。職務内容等の契約事項については、実習に先だって協議を行い、連携企業の専門的知見を活かした実習内容を取り入れるなど、十分な打ち合わせを行い協定書として締結した。

○連携企業: 株式会社 MGH
○特別講師: 池田 高德 氏
○連携内容: 株式会社 MGH から招聘した特別講師が、担当教員と連携して2年科目「自動車整備作業」において、令和6年度で2回(11月と2月)指導する。

○指導内容: 特別講師が、専門的知見に基づき自動車業界をとりまく環境、自動車整備士の役割等について講話するとともに、自動車の各構成部品の分解組付け及び点検整備や故障診断技術について実車を用いて実技指導する。また、エンジン単体でバルブクリアランスの調整方法や、実習車両を使用してエンジンの圧縮測定方法を学び2月に行われる年度末試験の課題とする。
併せて技術者として求められる態度やマナーについて指導する。

○目標到達: エンジン単体でバルブクリアランス調整が1人で10分以内で正確に調整できること。
○評価: 実習終了時に特別講師の評価を踏まえ、翌年2月の年度末試験の点数で評価する。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
自動車整備作業	① エンジンの構造を理解し、バルブの動きやバルブクリアランスの調整方法やエンジンの圧縮圧力の測定方法を学ぶ。	株式会社 MGH

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員の研修等については、本校教職員研修規程、ならびに下記(1),(2)に示す研修項目に基づき、教職員の経験や能力に応じた研修計画を、法人の指示のもと教務において作成し、学科主任ならびに関係教職員に受講させるものとする。受講を命じられた教職員はこれに参加し、専門職として求められる技術力や指導力の向上に努めなければならない。

研修成果は、報告書にまとめるとともに、内容によっては受講者が関係教職員に伝達講習し主旨等の徹底を図る。
また、教職員は、日頃より自己研鑽に励むとともに、指導力の向上に向けた授業研究や研究紀要への投稿等に取り組み、以て本校教育の充実・発展に資するよう努力することを基本方針とする。

- (1)自動車整備分野における実務に関する研修等
- ① 企業、団体が主催する専門技術研修
 - ② 企業から講師を招聘した専門技術研修
 - ③ 専門技術・技能の伝達講習
 - ④ 教員の技術レベルに応じた専門技術研修
- (2)指導力の修得・向上のための研修等
- ① 専修学校教員 教職課程研修
 - ② 企業、団体主催の指導力育成研修
 - ③ 外部講師による指導力育成研修
 - ④ 職務分掌上の業務に関する指導力育成研修

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

(1) 研修名: SUBARU技術研修会 (連携企業等: 中四国スバル販売株式会社)

期 間: 令和5年8月3日(木)

対 象: 国際自動車工学科(伊丹直毅、橋口昌文)

内 容: ①スバルの新技術紹介(講義)
②スバル車の整備体験と工場見学

(2) 研修名: 電子制御装置整備の整備主任資格取得講習 (連携企業等: 岡山県)

期 間: 令和5年10月17日(火)

対 象: 国際自動車工学科(山本裕次郎)

内 容: 電子制御装置、自動運転装置への対応

②指導力の修得・向上のための研修等

(1) 研修名: 「社会人としてのマナー及び文章講座」(連携企業等: 岡山科学技術専門学校教務部)

期 間: 令和5年8月25日(金)

対 象: 国際自動車工学科(伊丹直毅、山本裕次郎、武田保晴、橋口昌文)

内 容: ①ルールとマナーとエチケット
就職と直結する専門学校において、社会人になった際、どのような「マナー」「ルール」「エチケット」が必要なのか、あらためて学ぶ。
②分かりやすい文章の書き方
主語と述語、修飾語と被修飾語の適切な関係や、小論文に使える構成などについて事例を学ぶ。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

(1) 研修名: 日産自動車先進技術講習会 (連携企業等: 日産自動車株式会社)

期 間: 令和6年8月上旬

対 象: 国際自動車工学科(武田保晴)

内 容: 日産自動車先進技術の体感型講習会

(2) 研修名: いすゞ自動車ものづくり (連携企業等: いすゞ自動車中国四国株式会社)

期 間: 令和6年8月8日(木)

対 象: 国際自動車工学科(橋口昌文)

内 容: いすゞ自動車最新技術やいすゞ自動車の取り組み及び自動車業界や自動車整備士を取り巻く環境についての講義と、他校教員との情報交換の研修である。

(3) 研修名: スズキCS講習会 (連携企業等: スズキ岡山販売株式会社)

期 間: 令和6年11月中旬

対 象: 国際自動車工学科(伊丹直毅)

内 容: グループワークを通して仕事の基本やコミュニケーションのポイントを習得(講義)

- ①話の聞き方
- ②メモの重要性
- ③コミュニケーション方法
- ④チームワーク

②指導力向上のための研修等

(1) 研修名: 「留学生との会話のポイント」(連携企業等: 岡山科学技術専門学校教務部)

期 間: 令和6年4月3日(水)

対 象: 国際自動車工学科(武田保晴、山本裕二郎、橋口昌文、伊丹直毅)

内 容: 本校への留学生が増えてきている現状を踏まえ、日本語学科の佐藤先生が留学生との会話のポイント等について講義

(2) 研修名: 「就職活動に向けて、今から実践! 社会人としての心構えとビジネスマナー」(連携企業等: 岡山科学技術専門学校教務部)

期 間: 令和6年9月6日(金)

対 象: 国際自動車工学科(武田保晴、山本裕二郎、橋口昌文、伊丹直毅)

内 容: ①社会人の心構えについて
②姿勢とおじぎ、あいさつ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の学校関係者評価は、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、全教職員に実施した自己評価とともに、学校長が作成した自己点検・自己評価の資料を基に、学校運営に関わる部分、教育活動に関わる部分、学科教育活動に関わる部分等について、学校関係者評価委員会において協議し、現状の課題や問題点を洗い出し、改善点等について助言や提言をいただくものである。また、その助言・提言を運営委員会に諮り緊急性・重要性等の優先順位に基づき具体案を作成する。これを以て次年度の学科教育方針の見直しや学校運営等の改善に取り組むことを基本方針とする。

特に、学科教育については、資格取得や進路状況の他、教育課程編成委員会からいただいた助言や提言に基づく改善点等についても協議し、学科改善の指針とする。

なお、自己点検・自己評価、「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づく自己評価表、学校関係者評価はホームページ上で公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①学校の理念・目的・育人人材像 ②学校の特色 ③学校学科の将来構想
(2) 学校運営	①運営方針 ②事業計画 ③意志決定機能 ④人事・給与規程 ⑤情報公開 ⑥業務の効率化
(3) 教育活動	①教育理念に沿った教育課程 ②教育到達レベルや学習時間 ③カリキュラムの体系化 ④授業評価 ⑤成績評価・進級・卒業判定 ⑥資格取得の指導体制 ⑦教員の確保 ⑧教員の資質能力の向上 ⑨教員研修の実施
(4) 学修成果	①就職率 ②資格取得率 ③退学率の低減 ④卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	①進路・就職の支援体制 ②学生相談の体制 ③経済的支援の体制 ④健康管理体制 ⑤課外活動 ⑥学資負担者との連携 ⑦卒業生への支援
(6) 教育環境	①施設・設備の整備 ②学内外の実習施設・インターンシップ・海外研修の教育体制 ③防災体制の整備
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動 ②教育成果の伝達 ③学納金
(8) 財務	①中長期的財務基盤 ②予算・収支計画 ③会計監査 ④財務情報の公開体制
(9) 法令等の遵守	①法令・設置基準等の遵守 ②個人情報の保護 ③自己点検・自己評価の実施 ④自己点検・自己評価の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設の活用 ②学生のボランティア活動 ③公開講座、教育訓練の受託
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

○学校運営の改善

【質問・提言】

(1) (PTA) 前回話題に出た施設修繕についての進捗はどうなっているか。

【回答・改善等】

(1) (学校) 計画どおり進んでおり、2号館は全フロア、1号館は偶数フロアの修繕が完了している。

○学科教育活動の改善

【提言・質問】

(1) 就職をした学生の定着率の統計はとっているか。傾向などあれば業界としても対応したいので随時情報をいただきたい。

【回答・改善等】

(1) 就職後の定着率の統計はとっていないが、就職先企業によって定着率が割れていると感じている。原因は不明だが、今後も動向を見ていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
栗田 真志	株式会社プローバ 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
小上 敏寿	旭電業株式会社 総務部総務課 係長	〃	〃
馬野 信吾	株式会社うまの 代表取締役社長	〃	〃
宮西 司郎	協立土建 株式会社 代表取締役	〃	〃
西林 淳司	株式会社ナイカイアーキツ 管理部執行役員代理	〃	〃
岸本 晋一	ゼノー工具株式会社 代表取締役社長	〃	〃
近藤 康史	両備システムズ 営業本部 公共営業統括部 文教ビジネス営業部次長	〃	〃
重松 敬一	岡山トヨタ自動車株式会社 執行役員	〃	〃
金子 武志	山陽村上モーター株式会社 常務取締役	〃	〃
齊藤 雅崇	株式会社ティーエス自動車 玉島事業所 専務取締役	〃	〃
藪田 尊典	岡山科学技術専門学校 同窓会 会長	〃	卒業生
石原 由紀子	岡山科学技術専門学校 学生支援会 会長	〃	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

○ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL <https://www.oist.ac.jp/report.html>

公開時期: 令和6年8月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等に対して、公教育機関としての透明性の確保と説明責任を果たすため、本校の教育活動および学校運営状況等について、文部科学省の「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則り、情報を広く公開する。以て、企業等の学校関係者から支持や信頼を得るとともに、適切な情報を提供することにより、高校生等の学校選択の一助となることを基本に、分かり易く見やすい情報発信に努める。

この他、情報提供について他校との差別化を図るため、本校の教育力や教職員の質的レベルの高さを示すものとして教育活動方針ならびに研究紀要を公開し、本校教育の実際の姿を周知する。

以上が、情報提供の基本方針である。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校組織、教育活動方針、沿革、設置学科、学生数
(2) 各学科等の教育	・目指す学科像、育成する学生像、資格取得上の特典等
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・インターンシップ、進路講演会、企業説明会 ・教職員の研修会の参加、研究紀要
(5) 様々な教育活動・教育環境	・広報新聞、技術協議会、展示会、校外研修 ・スポーツクラブ、学生寮の整備
(6) 学生の生活支援	・アルバイトの紹介、教育相談、学生支援会、企業後援会 ・同窓会
(7) 学生納付金・修学支援	・学生納付金 ・奨学金制度
(8) 学校の財務	・資金収支計算書 ・貸借対照表
(9) 学校評価	・自己点検・自己評価 ・自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(○ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL <https://www.oist.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 国際自動車工学科)														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		自動車工学 力学、数学、図面、燃料、潤滑、材料	力学、数学、図面、燃料、潤滑、材料について学ぶ。	1通2通	108	○			○	○	○		
2	○		自動車工学 構造性能 (ガソリン)	自動車概論・ガソリン・エンジンについて学ぶ。	1前2後3後	80	○			○		○	○	
3	○		自動車工学 構造性能 (ジーゼル)	ジーゼル・エンジンの構造、作動について学ぶ。	1後2後3後	80	○			○		○		
4	○		自動車工学 電気・電子理論	電気、電子理論について学ぶ。	1後2後	64	○			○		○		
5	○		自動車工学 構造性能 (シャシ)	自動車のシャシ全般の構造、作動について学ぶ。	1通2後	108	○			○		○		
6	○		自動車整備 エンジン・故障探求 (ガソリン)	ガソリン・エンジンの故障修理の方法を学ぶ。	2前3後	48	○			○		○	○	
7	○		自動車整備 エンジン・故障探求 (ジーゼル)	ジーゼル・エンジンの故障修理の方法を学ぶ。	2前3後	48	○			○		○		
8	○		自動車整備 シャシ・故障探求	自動車のシャシ全般の故障修理の方法を学ぶ。	2前3前	64	○			○		○		
9	○		自動車整備 電装・故障探求	自動車の電装品について故障修理の方法を学ぶ。	2前3前	64	○			○		○		
10	○		機器の構造取扱 整備機器・測定機器	整備時に使用する機器や測定時に使用する機器について学ぶ。	1前	20	○			○		○		
11	○		機器の構造取扱 検査機器	検査時に使用する機器の使用方法を学ぶ。	3前	20	○			○		○		
12	○		自動車検査	自動車の検査について基準や方法を学ぶ。	3前	32	○			○		○		
13	○		自動車法規 自動車整備に関する法規	自動車についての法令を学ぶ。	3後	32	○			○		○		
14	○		手仕上げ工作・機械工作	ヤスリや電気ドリルなどを使用して工作作業を学ぶ。	1前	24			○	○		○	○	
15	○		基本測定	自動車全般について測定方法を学ぶ。	1前	48			○	○		○	○	
16	○		自動車整備作業	自動車の点検・分解・組立・調整方法について学ぶ。	1通2通3通	1308			○	○		○	○	
17	○		自動車検査作業	自動車の検査作業の内容や方法について学ぶ。	3後	60			○	○		○		
18	○		ホームルーム	学生、人としての義務や責任、生き方、人間関係作り等について学ぶ。	1通2通3通	192	○			○		○		
合計					18科目		2,400単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
○卒業要件：次の条件を満たしていること。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。 ○履修方法：全科目必修	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	講義16週 実習18週